

第 16 回外洋加盟団体長会議 議事録

開催日時：2022 年 1 月 30 日(日) 10:00～12:00

開催場所：オリピックスクエア 3 階第 1 会議室及びオンライン会議 (ZOOM) の併用。

出席者

理事

馬場益弘会長、中澤信夫副会長、中村隆夫副会長、大村雅一常務、望月宣武常務、平松隆、橘田佳音利、菊池邦仁、新田肇、安田大助、宇都光伸、中村和哉

加盟団体 (代表又は代理)

外洋津軽海峡会長 石川彰、外洋いわき会長 菊池 郁仁 (理事兼)、
外洋東京湾会長 足立利男、外洋三崎会長代行 近藤等、
三浦外洋セーリングクラブ会長 庄野栄一、外洋湘南会長代行 柴田崇行、
外洋駿河湾会長代理 遠藤智 (事務局長兼)、外洋東海会長 坂谷定生 (参与兼)、
外洋近北会長 高橋利明、外洋内海会長代理 森亮介、外洋西内海 (会長代理) 小山悟
外洋玄海会長 沼田浩行、外洋南九州会長 石川国彦
外洋沖縄 (会長代理) 徳田恭紀

専門委員会・WG

外洋計測委員会委員長 川合紀行、外洋安全委員会委員 平出篤志、
ルール委員会外洋小委員長 日下部大蔵、
レース マネージメント委員会外洋小委員会 三浦信郎、
キールボート強化委員会委員長 金子純代、

WG・参与

会員増強WG 平松隆 (理事兼)、艇登録WG長 作田智恵子、坂谷定生参与

加盟団体 (事務局)

外洋津軽海峡 上野聡、外洋いわき事務局長 菊池邦仁 (会長兼)
外洋東京湾事務局長 望月規矩雄、外洋三崎事務局長 近藤等 (会長代行兼)、
三浦外洋セーリングクラブ事務局長 坂口城治、
湘南事務局長 作田智恵子 (艇登録 WG 長兼)、外洋駿河湾事務局長 遠藤智
外洋東海事務局長 坂谷定生 (会長兼)、外洋内海事務局長 猪上忠彦、
外洋西内海事務局長 小山悟、外洋南九州事務局長 市来孝夫、
外洋沖縄事務局長 徳田恭紀

外洋事務局長 鈴木保夫、

(順不同 敬称略) 計 39 名

大村常務理事が議長となり、中澤副会長の開会の挨拶から始まった。

中澤副会長

コロナでハイブリッド開催となり、会場に 10 名、WEB 参加者を合わせて約 30 名が出席しています。

皆さんと会えなくて残念ですが、本日は限られて時間の中で宜しくお願いします。

続いて馬場会長より以下の挨拶があった。

馬場会長

昨年 9 月 4 日に河野会長の後任の馬場です宜しくお願いします。

昨日代表者会議が開催され、その席で河野前会長の退任の挨拶がありました。

長年のご尽力に心から感謝申し上げます。

オリンピックへの中澤副会長をはじめ、多くの外洋の皆さんからのご協力に感謝致します。

昨年 9 月 4 日の理事会において中川副会長、桑原副会長が退任し、中村副会長と望月常務理事が就任して新体制となりました。

今後 JSAF は SDGs と DEI を意識した運営に取り組んでいきたいと考えます。

外洋系、ディンギー系の垣根を取り払い、スポーツマンの一員として考えて頂きたい。

次に次期理事選挙立候補者の挨拶があり、その後議事に入った。

議事

1. セールナンバー発行規則について

大村常務：外洋艇セールナンバー登録規則が昨年 8 月 1 日に施行されたが、今後は日本中のクルーザーにセールナンバーを付けるためにパンフレットを作成し、全国のクラブやマリナーに、場合によっては直接出向いて説明していく。

会員にはセールナンバーが選択出来る等のメリットを付けている。

2. キールボート強化戦略について

大村常務：資料の通り強化戦略を立案した。

大型艇のチームレースと外洋レースの普及の 2 つに分けて作成した。

キールボートはキールボート強化委員会の担当だが、外洋レースも関係するので、取りあえず外洋常任委員会で作成した。

3. 各委員会からの報告

- ・通信委員会の設置

大村常務：現在無線に関しては外洋安全委員会で行っているが、今後通信のシステムが大きく変わることが予想されるので安全委員会から切り離し、独立した委員会を設置することにし2月の理事会で承認の見通しである。

現在全国に4つの海岸局があるが、加盟団体の管理となっておりメンテナンスの経費が加盟団体の負担となっている。将来的には費用を外洋常任委員会で負担することも検討したい。

・外洋ダブルス日本選手権 2022

大村常務：昨年はコロナの影響で中止となったが、今年も開催する予定で準備をしている。

概要は資料の通り、5月の連休に開催しコースは和歌山～蒲郡とする。

詳細はこれから詰めていく。

・サバイバルトレーニング

大村常務：1月14日～16日の3日間、日本人講師による日本で最初のサバイバルトレーニングが福岡県北九州市の「サバイバルトレーニングセンター」で開催された。

参加者は12名、2回目は1月21日～23日で開催予定だったが、施設側のスタッフ1名がコロナに感染者となったことにより、センターが一時的に閉鎖され3月に延期された。

J S A F 側の講師や受講者には感染者は出ていない。

・外洋計測委員会

川合委員長：今までI R C と O R C は夫々に証書の発行業務を行ってきたが、発行業務を一つに纏めることにした。

今後はメジャーも統一していく。

・外洋安全委員会

平出委員：OSR が改定されたので、改定のポイントは合同委員会で報告する。

JSAF のホームページに UP している。

今まで無線免許の講習会を外洋安全委員会で行ってきたが今後は新たに発足する通信委員会で行ってほしい。

・レースマネジメント委員会

三浦委員長：「コロナ禍でのレース運営参考資料」を配布したのでレース運営の参考にしてほしい。

- ・ルール委員会外洋規則小委員会
 - ・日下部委員長：配布した資料の通り、活動計画等を纏めた。合同会議でも報告する。
- 以上の報告に対し以下の質疑があった。

平松理事：セールナンバー登録の実績と、プロモーションの方法は？

大村常務：会員以外の登録は現在 8 艇となっている。

プロモーションの方法は配布したようなパンフレットを作成し、訪問して説明していく予定である。

4. 各団体からの報告

- ・津軽海峡

石川会長：クラブレースを月に 2 回のペースで行ったが表彰式や飲食は行っていない。青函レースは 2 年中止した。

- ・いわき

菊池会長：まだマリーナが開いてないので漁港を利用して海に乗り出している。まだレースは行っていない。

この場をお借りして、オリンピックのフラッグリレーに協力を頂いたことに御礼を申し上げる。

- ・東京湾

足立会長：昨年から今年にかけてレースは実施したが懇親会は実施していない。会員数は現状維持をしている。

- ・三崎：近藤会長代行：2021 年は初島卯月レース以外は不開催。イベントも中止、講習会も中止。2022 年度はコロナの状況を観ながら実施していきたい。

- ・三浦

庄野会長：21 年は 4 レース行った。小網代カップはレースのみを開催した。会員サービスとしては、シーサバイバルハンドブックを会員全員に送付した。今年のみドルポートレースは中止することが決まった。

- ・湘南

芝田会長代行：オリンピックは湘南の水域で開催され、皆さんの協力を得て無事に終わった。

湘南では会員のジュニアの設定について議論し、高校生会員を設定した。

年齢の部分を見ると JSAF の規則は古いと感じる。

外洋の観点からジュニア、高校生の議論は必要と考える。

コロナの対策として、100 万円の予算をとってレース時の検査キットを準備した。

今年は大島レース、パールレースを実施の予定。パールレースはもとに戻してフィニッシュは江の島になる。

トランスサガミ、若大将カップも予定する

- ・駿河湾
遠津会長代行：クラブレースが出来なかった。短いレースを6レース開催し、B級ジャッジの講習会を開催した。
 - ・東海
坂谷会長：昨年は7レースの計画が4月と10月から11月にかけての2レースのみの開催だった。
来年度はコロナの影響で計画通りに行くかは不明。
沖縄レースは公示を出し、現在2艇のエントリーがある。
 - ・近北
高橋会長：琵琶湖では各クラブのバックアップをしているが、昨年は中止。
敦賀カップはパーティー無しで開催した。
 - ・内海
森会長代理：3月～11月の間に水域内の特別加盟団体を含むクラブと共同し、13レースのサーキットを予定したが、6レースをパーティー無しで実施した。2022年度も同様の予定で、引き続き環境省のプラスチックスマートにも協力していく。加えて2シーズン振りのコロナ明けを願い、本格シーズンが幕を開けるGWからの2週間、大阪湾を盛り上げるべく、キャンペーンの強化を準備中である。水域が広く、大阪湾以外にも、播磨灘さらには日本海側のフリートとのコミュニケーションも活性化させ、ともに生涯スポーツとして取り組んでいきたい。
 - ・西内海
小山会長代行：11レースの内4レースが台風で中止、今年も同様。
 - ・玄海
沼田会長：クラブレースは思うようにできず、4レースを開催した。
今年は何年と同様にクラブレースを開催する予定し、安全な外洋レースを開催したいと考えている。
 - ・南九州
石川会長：種子島、三島、火山巡りの3レースは中止。
三島レースの代わりに錦江湾の中で隼人―三島カップという錦江湾内のレースを開催した。
今年の新春レースは津波警報が出たので中止した。
22年度は13レースを予定。4月30日に山川～種子島のレースを開催する。
- 沖縄
- ・徳田会長代理：離島のレースが多いので昨年は全て中止。
会員殿連絡が途切れている。22年はコロナ次第である。

以上の各水域の報告の後、三浦の庄野会長より以下の質問があった。

庄野：計測証書は IRC を取らなければ、ORC は取得できないのか？

川合：ORC 単独でも取得できる。

庄野：コロナでレースが実施できない中では会員サービスができないと会員が減ると考える。JSAF で議論してもらいたい。

5. 理事選出関係

各水域の次年度推薦理事候補について以下の報告があった。

・北海道・東北水域

菊池：現在、北海道と津軽で協議中である。

・関東水域

新田：東京湾から推薦する予定。

・中部水域

坂谷：駿河湾と東海とで1名であるが、岩瀬理事が調整中である。

・関西水域

安田：関西、西内海、近北出調整中であるが継続の予定。

・九州・沖縄水域

宇都：南九州、沖縄、玄海と協議し、玄海の沼田氏で調整済。

6. その他

・2022年度の予定

大村：来年度も今年度と同様に予定。9月は実際に会っての会議を予定したいが、春頃のコロナの状況次第で決めたい。

閉会の挨拶

中村副会長：本日はお疲れ様でした。昨年9月より副会長に就任しました。今後も宜しくお願いします。

12:00 に閉会。

以上